

学位論文審査結果の要旨

所 属	乙 三重大医学部（耳鼻咽喉科学）	氏 名	坂井田 寛
審 査 委 員	主 査 村田 真理子 副 査 新井 直也 副 査 近藤 峰生		
<p>(学位論文審査結果の要旨)</p> <p>Analysis of factors influencing sensitization of Japanese cedar pollen in asymptomatic subjects</p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>スギ花粉症は本邦において増加傾向にあり、現在の有病率は 30%程度である。スギ花粉症の発症に影響を及ぼす因子に関しては多くの先行研究があるが、スギ花粉への感作に影響を及ぼす因子は今までにほとんど報告されていない。本研究は、スギ花粉症未発症者におけるスギ花粉への感作に影響する因子を明らかにするために行われた。対象は、スギ花粉飛散期にスギ花粉症症状のない 73 名で、男性 32 名、女性 41 名、年齢は 18 歳から 60 歳、平均 34.1 歳であった。スギ花粉感作に影響すると考えられる 8 つの項目を質問紙で調査した。項目は、鼻副鼻腔炎の既往の有無、他のアレルギー疾患（アレルギー性結膜炎、蕁麻疹、薬物アレルギー、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息）の有無、スギ花粉症の家族歴の有無、現在の居住環境、幼少期の居住環境、喫煙歴の有無、周囲の環境にスギが有るか否か、食べ物の嗜好である。CAP-FEIA 法で血清中のスギ花粉 (<i>Cryptomeria japonica</i>) 特異的 IgE、及びヤケヒョウヒダニ (<i>Dermatophagoides pteronyssinus</i>) 特異的 IgE を測定した。73 名の内、47 名がスギ花粉未感作、26 名がスギ花粉感作陽性であり、感作率は 36%であった。多重ロジステック解析の結果、ヤケヒョウヒダニへの感作はスギ花粉への感作に有意に関連していた (オッズ比 6.63 95%信頼区間: 1.76-32.2) が、他の 10 項目には有意な関連はみられなかった。</p> <p>スギ花粉感作未発症者におけるスギ花粉への感作がヤケヒョウヒダニへの感作に影響されることを示した論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文と</p>			

して価値あるものと認めた。

Auris Nasus Larynx 第40巻 第6号 p. 543～p. 547 2013年12月掲載
Hiroshi Sakaida, Sawako Masuda, Kazuhiko Takeuchi